

令和5年度 第1回多賀城市総合教育会議 会議録

- 1 日時 令和6年2月9日（金）10:00～16:00
- 2 場所 多賀城市役所3階 第一委員会室
- 3 出席した構成員
市長 深谷 晃祐
教育長 麻生川 敦
委員 林 幹字
委員 小野 聡子
委員 高田 彩
- 4 欠席した構成員 委員 大井 知教
- 5 事務局職員
企画経営部長、企画経営部次長、企画課長補佐、企画課佐藤 啓太、企画課近藤 沙樹
- 6 その他出席した職員
教育部長、教育委員会事務局次長、学校教育監、生涯学習課長、文化財課長、教育総務課課長補佐、教育総務課佐藤 良彦
- 7 協議・調整事項
 - (1) 令和6年度に取り組む教育分野等の主な予定事業について 資料1
 - (2) 部活動地域移行について 資料2
 - (3) 小中学校通学区域の改編について 資料3
 - (4) 多賀城創建1300年記念事業について 資料4
- 8 主な発言内容

※要点筆記。職員は原則役職名

議事(1) 令和6年度に取り組む教育分野等の主な予定事業について 資料1

▽（林委員）生活交通ネットワーク維持事業、東部線は1日200人くらい、西部線は半分。利用人数は多いか少ないか。

→（企画経営部長）行政が運営するバスは大体これくらい。仙台市は除く。朝、夕方は多いが、日中は少ない。他自治体と比べると同じくらいである。

→（林委員）観光のために増やすのか

→（企画経営部長）観光は1つの視点。東北歴史博物館や南門に行くルートがなかったため変更する。

→（林委員）費用対効果はあるのか。

→（企画経営部長）収支だけを見ると難しい。観光の利便性を高めたい。キャッシュレスも導入する。便利になることで乗降者数も増えるとよい。

→（高田委員）部活動地域移行で、学校が活動場所になるが、他の場所で実施する際に移動手段としてバスも利用できるとよい。

→（企画経営部長）公共施設のイベントとも関連できるといいと考えている。自動運転やライドシェアなども今後可能性があるのでは、なかなか先を見据えるのが難しい。

→（市長）費用対効果を考えたら、即廃止だが、福祉的な視点や、交通不安地域を作らないために実施している。

→（企画経営部長）バス収支率があって、理想は50%超える。現状20%ほど、多いときは30%、震災で落ち込んだ。

▽（小野委員）学校教育支援事業。教育支援システムはずっと継続されるか。

→（教育監）蓄積した記録を残すために続けられるように成果を出したい。

→（小野委員）成果がないと継続できないか。

→（市長）そうとは限らない。KPIの設定によるもの。

→（教育部長）学校の困り感の解消を指標としている。小学校から中学校に引き継ぐことができ、児童に対してどんな個別的な関わりをし、どうゆう個性を展開していったかみえるので、継続したい。

→（教育長）アセスメントが合っているのか、データの蓄積、GIGAスクールのような様々なクラウドを使用することになっている。データベースをどう使うか共有するか文科省で研究しているので、今後どのようになるのかまだわからない。全国で同じデータを共有する可能性もある。

→（小野委員）数年でやめるという考えでないかと理解した

▽（高田委員）観光プロモーション実施事業について、6年度以降になると思うが、市民が文化発信していく機会が重要である。市民自体が自分事とする機会が日常的にあるとよい。市民団体に南門などガイダンス施設をどんどん活用してよいと発信し、この機会を上手く利用すべきと思われる。魅力発信、場の提供をすることで、今回の取り組みが継続的な財産になると思う。

→（市長）多賀城駅前広場など、広く皆さんに使ってくださるとしているが、市民は使っていないかわからないことがある。市民レベルで発信できるとよい。高田委員が、子どもたちと未来の塩釜を作るというジオラマなどを、政庁跡周辺で子どもたちが考える20年後のこの場所を想像しながら、こどもたちの未来が形になることがよいと思われる。

→（高田委員）観光拠点をすることで、いざ来訪者が来た時に、市民の誇りが体感で伝わる。道を聞かれたとき答えられ、市民が発信できるようになるとよい。

→（市長）京都は市民が観光を案内できたりもするように、市民が発信できるようになるとよい。

→（林委員）次のプロモーションはあるのか

→（市長）銀座三越の一室を貸し切って多賀城市のプロモーションを実施する予定である。

議事(2) 部活動地域移行について 資料2

▽（林委員）地域移行をしているところと話した。予算面が厳しい。説明するとできないクラブが多い。

子どもの成長を喜び感じると書いてあるが、企業側からすると、やりがい搾取になる。メリットを提示しないと難しいと感じる。ボランティア移行や低価格では難しい。赤字が多数である。

→（高田委員）ボランティア精神でやると、安全面の心配や責任の所在など不安がある。依頼するなら、きっちり依頼しないと大きな問題が生じる可能性がある。部活動は学校教育から切り離れた方がいいと思う。子ども達の居場所は、地域でいろいろ習い事を増やしていけば、人間関係構築や人間形成のよい機会ともなる。地域で現実できるか、準備が必要である。部活動自体をやめる。習い事の一つとして、必要な子たちが自分自身の動機付け、モチベーションで行く。そしてお金がなくても行ける居場所づくりが必要と思われる。

→（小野委員）部活動ではなく、行きたいところに行く。

- （林委員）なぜ移行。廃止はダメか。例えば、サッカーだと、部活動とクラブチームがあるように、別々はダメなのか。
- （市長）7ページの必要性の記載があり、改革が必要かどうか地域によって違う。多賀城はなぜ部活動改革が必要か。課題の専門性や教師の働き方など大人目線のみであり、子どもの目線がない。それぞれの地域で異なる。
- （林委員）エンジョイではダメか。大会や試合などなくても、エンジョイで市内の学校や体育館などで、対抗戦をするくらいではダメなのか。外に出すととなると、企業からすると外注費が高くなるので、費用がかかる。予算的にもよいことなのか。予算で収まるようにするなら、エンジョイにして練習内容も子ども達で考えて行うのもよいのではないか。勝ちたい人はクラブに入るなど。多賀城市の方向性を決めないと検討のしようがない。
- （教育長）その検討を今度の検討委員会で考える。高校ではこのような問題はあまり出ていない。教員の労働環境が問題になっている。スポーツ庁の検討会議では問題になっていて、時間外の職務にしているか基準が曖昧である。授業の準備などが時間外になっている。子どもたちのスポーツや文化活動を地域でとの問題もあるが、教育活動の形をどう変えるか学校の関連性も考えないといけない。
- （市長）こうあるべきだという部分から変えないといけない。こういう会議が大事である。上辺だけでなく、根本的な部分の話し合いを行う必要がある。

議事(3) 小中学校通学区域の改編について 資料3

- ▽（市長）学区外に子どもだけで出られないルールをやめることはできないか。矛盾の解消を。
- （教育長）2市3町で取り決めたものと思われる。確認する。

議事(4) 多賀城創建1300年記念事業について 資料4

- ▽（小野委員）無料のイベントはユーチューブ配信できるか？
- （企画経営部長）行う。ハイブリッドできるものは配信する。有料のものは後日配信する。

9 その他の発言内容

- ▽時間の関係からその他意見交換割愛

以上